

会 報 《第 420 号》

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



発行日 令和2年10月1日

《目 次》

- | | | |
|-----|------------|---|
| I | 第 486 回月例会 | 「毀されるものと残されるもの 兵庫の近代建築史」・・・2頁～7頁
～小学校をはじめとする綺羅星のような名作の一群～
京都華頂大学 教授 川島 智生 氏 |
| II | 会員寄稿 | 「WITHコロナ ～春から秋へ～」・・・ 8 頁
兵庫県住宅供給公社 理事長 福本 豊 氏（当会副会長） |
| III | 報 告 | （兵庫県主催）・・・9頁～10頁
「新型コロナ 現場の皆さんとの意見交換会」 |
| IV | お知らせ | 行事案内、事務局だより・・・ 10頁 |
| V | 広報コーナー | ・コロナ感染症対策「ひようごスタイル」・・・11頁～12頁
・兵庫県住宅再建共済制度 |

春日野小学校



（月例会資料より）

I 第 486 回月例会報告（令和 2 年 9 月）

演 題 「毀されたものと残されるもの 兵庫の近代建築史」 ～小学校をはじめとする綺羅星のような名作の一群～ 京都華頂大学教授 川島 智生 氏

（開催日 令和 2 年 9 月 10 日 東急 R E I ホテル）

《山本会長 あいさつ》

本日はコロナ禍の中にもかかわらず、月例会にようこそお越しいただきました。会長として、初めて開催する月例会でもあり、よろしくお願いします。

月例会は 2 月 6 日開催を最後に中止してまいりました。講師をお願いした各先生には本当に申し訳なく思っております。

月例会も「with コロナ」で対応準備いたしますので会員の皆様にはご不便をかけますが、ご参加をお待ちしております。

本日は「兵庫の近代建築」についてご講演をいただきますが、神戸は今から約 150 年前、江戸幕末に神戸港が開港され海外との玄関口となり発展してきました。

先生の著作によると大正後期から昭和初期までの小学校建築は景観形成等の拠点となり全国的にも高い評価をされたと記されています。また阪神大震災にも耐える構造であり、当時の技術水準の高さに驚かされます。

残念ながら耐震化の必要性から、地域の原風景として愛された校舎も解体され、建て替えが進んでおります。

本日は私をはじめ先生のご講演をお聞きし、改めて先人たちの努力を学び、それぞれの立場において、これからの建築設計や施工管理に生かしていきたいと思っております。



《川島先生 講演》

京都華頂大学の川島です。京都の大学に勤めておりますが、住まいはずっと神戸で、非常に愛着を持っております。

今から 30 数年前、誰も手をつけていない大正、昭和の鉄筋コンクリートの小学校建築の分野に入りました。ちょうどその頃（昭和 60 年頃）神戸市内の小学校は取り壊しの嵐でした。当時一人で神戸市内の小学校を見て回りました。京都や大阪も同じような状況でしたが、神戸市が一番集中的に壊されていたように思います。

このような学校建築の研究だけでなく、戦前に活躍した建築家の研究もやりました。同時に小学校の教員の方々にも大変お世話になりました。

日々建物は消えていきますが、抗って残るものもある。文化財になると「都市の記憶」として見ることができる。そういう象徴的なものも必要ではないでしょうか。

（ユニチカ 旧尼崎紡績 ）



最初は尼崎の「ユニチカ（旧尼崎紡績本館）」です。煉瓦造りの建物で、尼崎が工業都市となる出発点の建物です。神戸の異人館と同様に瓦屋根で、暖炉があり煙突がついている本格的な洋館です。このような煉瓦造りの洋館で残っているのはユニチカと京都の NISSHA 日本写真印刷ぐらいです。

これがなぜ大事かというとは明治初頭の富岡製糸場は今国宝になっていますが、ユニチカのような明治30年頃の建物が無くなっていくのは寂しいと思っているからです。



(神戸の小学校)

神戸は日本で一番学校建築の鉄筋コンクリートに成功した所です。大学も、旧制高校、旧制中学も含め最初に学校の校舎が鉄筋になったのは神戸市の小学校です。

我が国の建築の歴史としては関東大震災の後に鉄筋コンクリートの建物が出来たという図式でした。

当時日本においては、小学校の場合建設費用は市町村負担で鉄筋コンクリートは木造の2倍経費を要したためなかなか鉄筋コンクリート造化は進みませんでした。

昭和33年にやっと国庫補助により、小学校、中学校、高等学校を作る際には、過半を援助するという形になりました。

ところが神戸では既にあらまし鉄筋コンクリートで作った19校ものの建物が出来ています。

これは、米国のトラスコン社が木造と鉄筋の中間ぐらいの建設費で造るということで、神戸市がそれに乗ったという形なのです。

当時の神戸市営繕課に清水栄二という建築家がいる、彼が中心となって神戸の小学校建設を推進したのです。

最初は「春日野小学校」(旧筒井小学校)です。この小学校のみが現役です。なぜここだけが建て替えにならなかったのか不思議に思っています。

特徴は非常に小さいですが鉄筋コンクリートの柱です。2.05mのピッチで感覚が、柱の間隔が日本一短い建築です。

神戸の小学校の特徴は、一番上が講堂になっていることです。1・2階は中廊下式で星の模様(イスラム風)になっています。



「須佐小学校」です。日本で最初に鉄筋で建てられた小学校です。

ギリシャ神殿風の玄関であり、ポルティコといいます。この上が講堂で、1階が職員室です。左右にあるのが教育棟です。

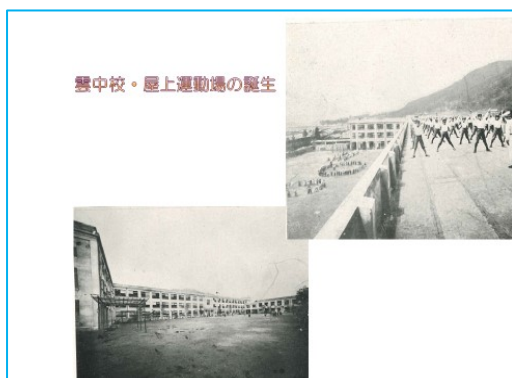
面白いのは窓の面積が非常に大きいことです。これが特徴になっていますが、当時の米国流という耐震設計のことなど少しも考えていない建物です。



「野崎小学校」は、ギリシャ神殿風でワンパターンに統一されていました。

「雲中小学校」では屋上で子供たちが体操をしています。今までの木造であれば屋上が使えないわけで、鉄筋になって屋上が使え、第2の運動場として使われました。

現在と違い子供の数が非常に多くて、非常に助かったと聞いています。

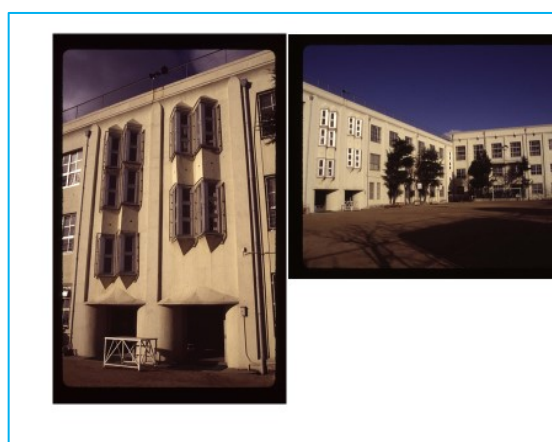


「長楽小学校」です。講堂の上のデザイン部分に非常に凝っています。

一方、この時期に誕生した室内小学校は珍しく中庭型になっていて、屋上がガラス張りになっています。真ん中が講堂兼県体育館、トップライトがガラス屋根で、ここから日が落ちてくるわけです。



「鴨越小学校です」です。ドイツ表現主義、アールヌーボの影響を受けています。



三宮にあつて意外と注目されなかったのが「二宮小学校」です。ロマネスク風とか、ベランダとか、なかなか良い建物でした。阪神大震災の後に被害がなかったにもかかわらず、毀されてしまいました。これが残っていたら良い文化財だったと思います。



「二葉小学校」は今も残っています、講堂を上にあげるスタイルでロマネスク風のアーチが並んでいるのが特徴です。



これは「川中小学校」です。水平のモールディング状に窓とかを出しており、角の階段室はガラス張りです。



須磨区の「大黒小学校」です。水平線をとても強調したモダンデザインです。水平のモールディングの内側はトイレですが、外観重視のデザインとなっています。

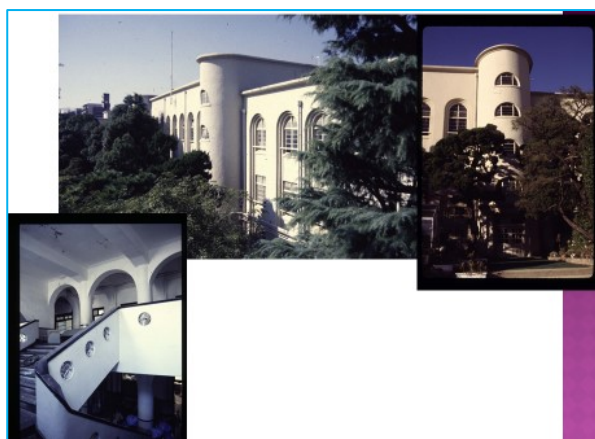


「魚崎小学校」です。似た形で現在建て替えられています。よく見ると違うところがあります。この学校の特徴は中央にある給水塔です。当時水洗便所は珍しく水をここまで上げて各階の水洗便所に流したわけです。また螺旋階段で上がって点検できるようになっています。



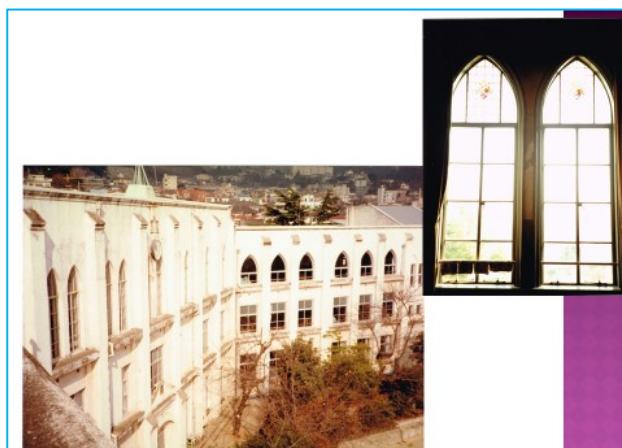
「本山第二小学校」です。今もこの学校と似せて作られた瓜二つの学校があります。この建物はドイツ表現主義といいまして見たときに非常に不思議な気持ちにさせてくれます。

この建物は摩耶ホテルをつくった今北乙吉という人の作品で、ホールなんかはそっくりなものになっています。



「摩耶小学校」はもともとは西灘第三小学校といわれたものです。宝塚ホテルで有名な古塚正治という人の作品です。

真ん中に講堂を持ってきて、窓も全部ゴシックの形になっています。講堂にはステンドグラスがはめ込まれていました。



(宝塚ホテルと大劇場)

近々毀される予定が宝塚ホテルです。この建物は最初良元村の平石嘉右衛門という人が作り、のちに阪急に売却されたものです。

日本では数少ない大型リゾートホテルです。ドイツのユーゲントシュテールとか、そういうクラシックホテルの一つで、20世紀初頭のデザインです。また一番上の階の屋根はマンサード屋根となり、2階の外壁には焼き物でテラコッタがはめられています。

このように色々なところに非常に素晴らしい彫刻の装飾がはめ込まれています。

神戸にはオリエンタルホテルとか有名なホテルが多くありましたが、宝塚ホテルは日本人が多く宿ったホテルとして相当有名でした。

竣工時と現在

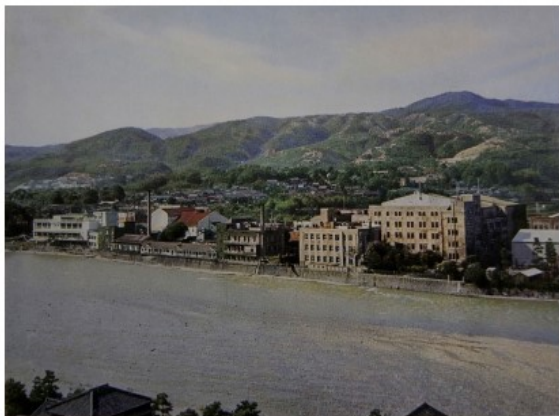
- ・覆ってしまっている新館との繋ぎの部分のホールを撤去
- ・新館部分の撤去



「宝塚大劇場」です。今は建て替わっていますが、建てられた当初は5千人収容で、東京、大阪、神戸にないものが宝塚に作られ、当時は日本で一番大きな劇場でした。

客席は結構窮屈で、座席はものすごく急勾配だったのでたくさんの観客が入ることが出来ました。上から川を見下ろせるながめの良い屋上がありました。

劇場の横にあるのは、阪急が最初に作った温泉施設です。



69

(三菱銀行 ファミリホール)

元三菱銀行でしたが、数年前に毀してしまいました。今はタワーマンションの根本だけが残っています。

屋内はタイルもミントタイルといいまして、英国の有名なタイルが張ってありました。



(廃墟の摩耶ホテル)

今は廃墟になっています。映画やTVのロケにもよく使われていました。設計は今北乙吉で、登録文化財に近々なると聞いています。

さっき申しましたように、アーチ部分など小学校に似ています。

しかし、3年前に調査に行きましたが、コンクリートが泥のようにとろけているのをはじめて見ました。軒の部分などが泥のように溶け、少し触ると端が落ちてしまうなど、老朽化が著しい建物です。

ここは山なので、下から玉砂利を持って来られなかったので、山の砂と山の上の岩を砕いて、それをセメントと混ぜて、コンクリートを現場で作ったそうです。多分セメント量が少ないと思います。

今後建物は20～30年くらいしかもたないのではないかと思います。



（網干銀行本店）

保存と再生がうまくいったケースとしてご紹介するのが、大正 10 年の建物である網干銀行本店です。来年で 100 年を迎えますが、鉄筋ではなく煉瓦造りです。最近フランス料理店になったそうです。

昔は栄えていた網干の商店街ですが、今は非常に寂れおり、今は周りの建物も全部消えて、更地になっています。



（芦屋の宮塚市営住宅）

昭和 28 年の建築で、昨年登録文化財になった市営住宅です。昭和 20 年や 30 年代の建築はあまり残っておらず、珍しいケースです。

5 2 F C 型という公団の標準設計ですが、外観が石積みです。日華石という石川県でとれる石で、甲子園ホテルと同じ石です。厚さ 15 センチで穴が開いていて、そこに鉄筋をとおしている。基礎を打った後に鉄筋が立ち上がる、そこに上から穴が開いた石を落とし込むという積み方をしています。

芦屋市営住宅・宮塚町・昭和28年

- ・公営住宅52FC型標準設計に基づき芦屋市建築課が設計
- ・施工は日本ビルダース、小笠原あきらが率いた、京大建築学科昭和6年卒、のちに小笠原・浜田建築事務所主催
- ・1型石造ブロック2階建8戸
- ・平面は6畳+4.5畳+居間兼客間 水洗便所 内部は木造
- ・組積造の内側は鉄筋(縦筋)をブロック状にした石で挟み込み、鉄筋(横筋)を覆す
- ・日華石、石川県で採石、甲子園ホテルと同じ石、石壁の厚さは150MM



さっと見てきました、これで終了させていただきます。

《質疑応答》

（質問）

先生が関西圏で、この建物は立派だとか、是非見ておくべきだというものがあれば、お教えください。

（回答）

私が勤めている京都にも、戦前のものがありますが、ホテルに変わったり、別の機能のものになっていたりしています。全部が残ればよいと思っていますが、ある程度は昔のまま残しておくというように国の方でルール作りをして欲しいと思います。

最近いったところでは、結構大きな料理旅館で、昔は吉川英治などが泊ったという日本一古い寿司屋の弥助寿司といものが、奈良県吉野の下市村にあります。

《川端副会長 あいさつ》

本当に今日のご講演ありがとうございました。

我々にとって懐かしい、また身近な題材をお話いただき、また近代建築をわかりやすく解説いただき、納得いたしましたところも数多くございました。

私も 50 年前の学生だった時、スクラップ・アンド・ビルドの時代で京都とか奈良の町屋建築を見て回っていました。

県に就職してからも、神戸・阪神間は特徴ある近代建築が多いと思いましたし、毀されれば取り返しがつかないものを何とか残さなければ感じていたことを思い出しました。

そのような課題に目の目を当てていただいて、非常に楽しく拝聴させていただきました。

今後ともよろしくお願いいたします。



Ⅱ 会 員 寄 稿

『WITH コロナ ～春から秋へ～』

兵庫県住宅供給公社 理事長 福本 豊 氏
(当会 副会長)

コロナとともに過ごしてきたこの半年。仕事とプライベートで、この時期だからこそ経験できたこと、これからしたいことをまとめてみました。

まずは、仕事のことから

県住宅供給公社「生活支援割」の創設

公社として、住宅セーフティーネットの役割を果たすべく、新型コロナウイルスの影響で解雇・減給となった方を対象とした入居支援策「生活支援割」を創設し、4月27日から運用を開始しました。

- 入居にかかる「初期費用ゼロ円」という制度で、
- ①収入を問わず入居可能（家賃4倍の基準撤廃）
 - ②連帯保証人と敷金を免除
 - ③家賃は当初2カ月無料、その後4カ月は2割引という内容です。

対象住宅は、神戸から中播磨にかけての15団地250戸で、家賃3～5万円台の低廉な住宅。

9月15日現在、81件の問い合わせがあり、17世帯が入居。一定の役割を果たしています。地区でみると、阪神間の川西、伊丹、宝塚、西宮市。神戸市の垂水区。そして播磨町、姫路市と、地域にかたよりは見られません。家族構成や年齢でみると、17世帯のうち単身者が13を占め、世帯主の約半数は50代です。

相談件数、入居世帯数とも落ち着きを見せてきています。ただ、第3波の可能性があり、経済情勢も見通せないことから、9月末までとしていた入居期限を、来年3月末まで延長しました。

「生活支援割」の利用状況

区分	相談件数	入居世帯数
4月	34	0
5月	28	7
6月	11	3
7月	6	5
8月	2	0
9月	0	2
合計	81	17

秋の味覚収穫カレンダー



つぎに、プライベートなこと

ドラマ三昧と丹波の秋の味覚

コロナの影響で外出が減り、テレビドラマ好きの私には、一気見する絶好機となりました。過去のヒット作「やまとなでしこ」、「愛していると言ってくれ」の再放送を楽しみ、韓国ドラマ「愛の不時着」、「トッケビ」にもはまりました。

そして秋が近づき、前職で勤務していた丹波の秋の味覚を求め、出かけようと思っていたところ。

丹波地域では、9月に栗、10月に黒枝豆、11月に大納言小豆と山の芋、秋の味覚の収穫が続きます。例年10月上旬に開催され黒枝豆を求める人でにぎわう丹波篠山味まつりも、今年はコロナで中止となりウェブで代替開催しています。

そんな中、「丹波栗食べ歩きフェア」が今年も開催中です。栗の料理、お菓子等を提供する店舗や、生栗の直売所、観光栗園をウェブサイトに掲載している「丹波栗食べ歩きMAP」から好みに合わせて選択し、ノボリを目印に巡るイベントです。



栗ひろいができる栗園は10月4日まで、生栗の直売所は10月18日まで、料理とお菓子の販売店は11月8日までの開催となっています。

10月初めには黒枝豆の沿道販売が一斉に解禁。11月からは「丹波大納言小豆ぜんざいフェア」が丹波市内で、「山の芋フェア」が丹波篠山市内で開催されます。王道メニューから創作メニューまでいろいろ楽しめますので、ぜひお出かけを。

Ⅲ 報 告

兵庫県主催

「新型コロナ 現場の皆さんとの意見交換会」

令和2年9月14日（月）

兵庫県民会館 鶴の間

兵庫県では、新型コロナウイルス感染症対応の現状と課題等について、各分野の第1線で活躍している方々の意見を直接聞くための意見交換会を開催しています。

このたび、建設分野での会に山本会長が出席されましたので、概要を報告します。

《金澤副知事あいさつ》



兵庫県コロナウイルス感染症対策本部の副本部長兼事務局長をしております兵庫県副知事の金澤でございます。

新型コロナの第1波は終息し、6月からは第2波が始まり、20名前後の感染者数で推移しています。まだ減少しているとの評価はできない状況にあります。

警戒心を持って対応しなければならない状況のなかで、これまでの県の対応を振り返り、今後の対策の充実を図りたいと考えています。そのため各分野の皆さんが率直に感じられていること、苦労されていることを県としてどのように対応すべきかを検討するということで、このような場を設けさせていただきました。

建設業の分野では、直接大きな社会活動の制限がありませんが、長い目で見ますと今後の設備投資等を見れば行政は社会資本の充実ということで前向きになりますが、民間では不透明な状況にあると思います。

建設業の皆さんのご意見をしっかり受け止めて県の対策充実に努めていきたいと思いますので、忌憚のないご意見をお願いします。

《山本会長 発言》



兵庫県建築会は70年を超えて活動しており、環境と共生というテーマで活動をしています。

コロナウイルス感染症のため、やむを得ず本会の事業の中止、縮小などの対応をとっており、今後の運営にも苦慮している状態です。

当会の特徴は、多様な業種を横断しているということであり、ヒューマンネットワークを活かした色々な情報を共有しながら、発信していきたいと考えています。

当会からの要望としまして

第1点は、コロナ禍において入札の不調も散見されているなか、業種ごとに違いはありますが、発注時期、工事概要等の事前公表等が改善されれば、受託希望者の計画的な応札参加にもつながるものと考えております。

第2点は、兵庫経済は大変な被害を受けていますが、このコロナショックからいち早く立ち直るには地元企業への優先発注が重要だと考えます。

建設業の工事・業務における地産地消ともいえる地元のことは地元でという形をお願いできれば、各業種が力を合わせてやっていけると考えています。

第3点は、コロナ禍において、官民が協力してデジタル化を推進することで、公共工事を遅滞なく進めることができると考えています。

発注者に対してのデジタル申請やWEB会議等が可能になり、生産性の向上にも大きく寄与するものと思われます。

官民が同じ目標値を置いてバラバラな対応をせず行えば、担い手不足の解消などにもつながり、兵庫県にとっても今後大きなプラス材料になるものと思います。

我々も努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

《金澤副知事 発言》



ありがとうございました。

特にデジタル化につきましては、今回のコロナ禍の中で改めてその重要性を意識したところが多かったと思っております。

また兵庫県建築会におかれましては講演会を実施していただきありがとうございました。

コロナ感染症対策を十分にしたうえで、可能なものは実施するということが大切であると思っています。

《金澤副知事 意見交換会のまとめ》

建設の分野では、観光・飲食の分野のような厳しい状況にはありませんが、今後来年度以降において仕事のボリュームをいかにして維持していくかということが重要と考えています。

また、今年にどうするかという問題ではありませんが、デジタル化の推進など中長期的に取り組まなければならない課題もあります。

本日、皆さんからお伺いした貴重なご意見などを参考にして、今後の対策に取り組んでまいりたいと思います。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。



IV お知らせ

◎行事案内

1 第487回月例会

日時：10月8日（木）

13：00～14：00

場所：東急REIホテル

演題：「日々の暮らしにクラシックを」

講師：チェロ奏者、大阪音楽大学講師

植木 美帆 氏

2 研修交流会

日時：令和2年10月22日（木）

場所：城山ゴルフ倶楽部

3 第488回月例会

日時：11月19日（木）

13：00～14：00

場所：東急REIホテル

演題：健康マイプラン

「災害時の食はどうあるべきか」

講師：甲南女子大学名誉教授

奥田 和子 氏

なお、これら行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑みて、中止、延期等が想定されます。変更等のお知らせは郵便、メール等でご案内しますのでご了承ください。

（事務局たより）

コロナ禍のなか、先日は庭先で赤とんぼを見かけるなど、連日の猛暑からようやく秋の季節が垣間見えるようになりました。

コロナ対策を万全にするという条件はありますが、四季の中で最も過ごしやすい時期となり、Go to キャンペーンなどにより色々な場所で人の賑わいが戻ればと思っています。

今年初めての月例会が開催されました。コロナ対策に万全を期した形でしたが、これからの月例会に会員の皆さんの参加をお願いします。

本号の11頁に兵庫県が推奨する「ひょうごスタイル」を掲載しました。日々の仕事、生活の参考にいただければと思います。

新型コロナウイルス感染症に係る「兵庫県緊急用トップページ」のリンクですので、ご活用ください。

<http://web.pref.hyogo.jp/index.html>

事務局：吉本義幸、石井滝実子

電話：078-996-2851

FAX：078-996-2852

Email：archit-k@axel.ocn.ne.jp

新型コロナウイルスの感染拡大を予防する 「ひょうごスタイル」

兵庫の新たな生活様式「ひょうごスタイル」を取り入れ
新型コロナウイルス感染拡大予防にご協力をお願いします

I 感染拡大を予防する「日常生活」(ライフスタイル)

1 ウイルスとの共存を意識した生活習慣

- (1)「3密」(密閉・密集・密接)の回避
- (2)身体的距離(ソーシャルディスタンス)の確保(できるだけ2m。最低1m)
- (3)マスクの着用(※)、咳エチケットの徹底
- (4)手洗い・手指消毒(手洗いは30秒程度、石けん・消毒薬の利用)
- (5)体温測定・健康チェック(熱や風邪の症状がある時は自宅で療養)
- (6)発症時やクラスター発生時に備え、いつ誰とどこで会ったかを記録



※熱中症リスクを考慮し、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合は、マスクをはずす。

2 日常生活の各場面別の行動スタイル

(1) 買い物	☐ 通販、電子決済の利用 ☐ 展示品への接触は控える ☐ レジに並ぶときは、前後にスペース ☐ 計画を立て、1人又は少人数ですいた時間に素早く済ます
(2) 公共交通機関	☐ 会話は控えめに ☐ 混んでいる時間帯を避ける ☐ 徒歩や自転車も併用する
(3) 食事	☐ 持ち帰りや出前、デリバリーも利用 ☐ お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避ける ☐ 対面ではなく、横並びで座る ☐ 会話は控えめに ☐ 大皿は避け、料理は個々に
(4) 娯楽・スポーツ等	☐ 公園はすいている時間、場所を選ぶ ☐ 筋トレやヨガは自宅で動画を活用 ☐ ジョギングは少人数で ☐ すれ違うときは距離をとる ☐ 予約制を利用する ☐ 歌や応援は、十分な距離の確保かオンラインで
(5) 冠婚葬祭等	☐ 多人数での会食は避ける ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

II 感染拡大を予防する「働き方」(ワークスタイル)

- ☐ 在宅勤務(テレワーク)、ローテーション勤務、時差出勤の推進 ☐ 会議はオンラインで
- ☐ 対面での打合せは換気とマスクを ☐ 発熱など体調不良の従業員の出勤を停止 ☐ 職場での「3密」防止

III 自然災害と感染症との「複合災害」への備え(災害文化)

1 「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営ガイドライン」の活用

2 複合災害に対応するための事前準備

- ・ 自然災害と感染症との「複合災害」に備え、避難場所・避難所の確認や避難所での対応等について、事前に準備
- ・ 避難判断にあたっては、「マイ避難カード」や「ひょうご防災ネット」アプリを活用

安心をカタチに
兵庫県住宅再建 共済制度
フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」



今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%！
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟！

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ！**

県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に

住宅再建共済

年額**5,000円**で
再建、補修等に
最大**600万円**給付！

※半壊（損害割合 20%）以上

一部損壊特約

年額**500円**で
補修等に
25万円給付！

※損害割合10%以上20%未満

県内の住宅（借家含む）にお住まいの方に

家財再建共済

単独加入 年額**1,500円**で
住宅とセット加入の場合 年額**1,000円**で
購入・修復時に 最大**50万円**給付！

※床上浸水・半壊以上

※住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「リ災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)
FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosai@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 加入申込書はダウンロードできます



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局（簡易郵便局除く）にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です！

兵庫県住宅再建共済基金HP →

<http://phoenix.jutakusaiken.jp/>